

JICSWニュース

No.30

Japan Institute of Community Social Work

「第20回地域福祉実践研究セミナー in とやま」所感

日本地域福祉研究所 田中英樹

年に1回、盆の終わりに各地で開かれる地域福祉実践研究セミナーも早や20回を迎えた。今回は、富山県の西部3市（高岡市3会場、氷見市1会場、射水市1会場）で、「鳳凰鳴けり彼の「高」き「岡」より発信す〜地域福祉は我が地元から・我が生活から〜」をテーマに開催された。筆者はCSW研修や精神保健福祉関係などで講師として度々訪れる機会がある富山県で開かれた本セミナーに、研究所の担当者として現地の企画段階から関わらせて頂いた。

基調講演は高岡市出身でとても縁が深い炭谷茂先生であった。氏は、地域福祉と環境、障害者支援、まちづくりなど幅広い内容を歯切れよく語ってくれた。シンポジウムは、翌日行われるワークショップの基調であり、「高岡市の福祉、過去、現在、未来を語る」内容で高岡市の歴史や新たな息吹を学ぶ機会となった。詳しくは雑誌「コミュニティソーシャルワーク」第14号で紹介したい。情報交換会では、セミナーでだけ会う懐かしい顔ぶれから、新たなつながりとなった出逢いなど老弱男女が寛いだ雰囲気の中にも、楽しい出し物芸に高岡文化の香りを感じた。ワークショップは現代的な課題に立ち向かう

べく、研究所の研究者も参加して5会場で行われた。現地から学び、現地にも還元していく双方向な学びの場として、地元の社会福祉協議会や地域包括支援センター、行政、施設などの職員、民生児童委員、自治会役員、ボランティアだけでなく、全国からも職員や研究者から学生まで参加した演習が中心であった（各ワークショップの報告は本研究所のホームページから見る事ができる）。最終日はワークショップの報告と大橋理事長の総括講演が行われた。筆者所属の学生も14名が参加し、氷見の温泉にもう1泊して更に学習を深めることができた。

思い起こせば、本セミナーも10回目を迎えたあたりで、「少し休もうか」と考えた時期もあったが、続けて良かったと考えている。皆勤賞は私と大橋理事長など数人しかいない。来年は丸亀市を中心に香川県で行われる。再来年は、埼玉県飯能市が予定されている。来々年はどこだろうか？第30回までは元気で参加したいと意を強くしている。



「第20回地域福祉実践研究セミナー in とやま」を終えて

富山県社会福祉協議会

地域福祉・ボランティア振興課 池田浩一郎

平成26年8月28日から30日、富山県高岡市を主会場に「第20回地域福祉実践研究セミナー」を開催した。北は宮城県、南は沖縄県まで参加者約250名が高岡市、氷見市、射水市に集い地域アセスメントから始まり、地域の課題を洗い出し、参加した研究者・専門職・地域住民が一緒になり地域課題への方策検討に取り組んだ。セミナー開催にあたっては、各市社協の職員の方には何度も地域の方との打ち合わせや担当先生との打ち合わせにご尽力いただきご苦労をかけたがその甲斐があり成功裏に終わった。

また、基調講演・シンポジウムには、高岡の今後の方向性を探るべき講師人であり、まさに新たな「発進」となるのではないかと感じた。今後、このセミナーで感じ、学んだことを地域生活に活かすため、一人ひとりのニーズに対して、きめ細やかな対応と地域支援への取り組みができるよう、地域住民、専門職、社協、行政が一体となった取り組みを推進していくことが必要であると考えている。

最後に、研究所の先生方には、素晴らしいアドナイスをいただき、セミナーが意義深いものとなりましたこと、心から感謝申し上げます。



第20回地域福祉実践研究セミナーワークショップ報告

高岡市社会福祉協議会 伊東寿

8月28日から30日の日程で、「鳳凰鳴けり彼の高き岡より発進す～地域福祉は我が地元から・我が生活から～」を看板に掲げ、高岡市をメイン会場に開催された。5会場でワークショップを行い、私が担当したワークショップNo.3のテーマを「過疎化進行する中山間地におけるソーシャルワークによる支援の今後を探る」とし、こぶし荘を会場に52人の参加を得て行った。

平成23年1月の豪雪をきっかけに行ってきた中山間地域支援活動を紹介するとともに、現地へ出向く地域巡回バスを中山間地（五位山地区・赤丸地区）に走らせた。限界集落では集落外からの支援を必要としているが、どの様な方法で確保するかがねらいである。地域の強みを活用して、人を呼び込むことが提案された。例えば、景勝地をテーマにした写真展、空き家を活用した公営住宅、農家による野菜作り教室、ツールド五位山自転車レースなどの提案があった。懇親会では、米白慢や菅笠講話があり、フルート演奏や富山県民謡こきりこ節で、和気あいあいと夜の帳が下りた。次回は降雪時期にご来場願いたい。



問題解決に至らないこと、その支援方法としてGSWが有効であること、さらに棚谷さんより「地域福祉は民主主義を鍛える場」という指摘もあり、今後の地域福祉実践への新たな視点が得られました。



2014年度 通常総会報告

日本地域福祉研究所 安部晴美

2014年度通常総会は、5月31日（土）、春の公開研究会と合わせて、東京新宿区にある（財）テクノエイド協会会議室にて行われました。当日は、会員総数187名中100名（うち表決委任者数65名）の出席により各議案の審議を行い、満場一致ですべての審議事項が可決されました。審議事項は、以下のとおりです。

- 第1号議案 2013年度事業報告案
- 第2号議案 2013年度決算案、監査報告
- 第3号議案 2014年度事業計画案
- 第4号議案 2014年度予算案

上記内容については、2014年度より当研究所のホームページで公開することになりましたので、ぜひご覧ください。（東京都で公開している内容と同様）

2013年度決算の傾向としては、事務所移転費用の返済やホームページの改定に着手したため運営状況が厳しい結果となっておりますが、2012年度に今期に支出する費用を見越して経理処理を行っているため、2014年度の運営状況は安定しております。

2014年度の新たな事業としては、千葉県白井市地域包括ケア・地域福祉計画にもとづく地域ぐるみネットワーク事業、栃木県市貝町の計画策定事業（地域福祉、障害者、高齢者、子ども子育て支援）など、地域をトータルに支援する事業が増えています。

理事、主任研究員、会員のみなさまのご協力により、さまざまな地域福祉実践の取組にお手伝いができるようになりました。今後も、研究所の使命である草の根支援に全力投球してまいりますので、ご支援とご協力のほど宜しくお願いいたします。



2014年度公開研究会報告

2014年5月31日（土）実施

「GSW実践とサイレント・プア」

山梨県立大学 神山裕美

本研究会は、平成27年4月から施行される生活困窮者自立支援事業へのGSW実践を各地域から学び、今後の展開への検討を深めることを目的に開催しました。現代の貧困問題は、経済的問題だけでなく社会孤立等を含め、サイレントプア（声なき貧困）として注目され、平成26年4月から6月までNHKドラマとしても放送されました。今回は、その企画提案をされたNHK制作局エグゼクティブ・プロデューサーの棚谷克巳さん、ドラマ監修者の豊中市社会福祉協議会の勝部麗子さん、さらに本研究所GSW研修修了者で全国的にも注目される佐倉市社会福祉協議会の鯉淵百合子さんにもご講演いただき、日本地域福祉研究所ならではの豪華講師陣で開催いたしました。当日は会場の関係で人数制限をせざるを得ず、ご希望に添えなかった方々も多く申し訳ありませんでした。生活困窮者自立支援事業は、経済的貧困だけでなく社会的貧困や孤立問題への対応なしにその



◆ 日本地域福祉研究所創立 20 周年記念 第 2 報

当研究所 20 周年記念式典について、現在、下記内容にて開催予定です。申込方法等詳細につきましては、確定した後改めてお知らせ致します。併せて、記念誌の協賛広告についても募集しております♪皆さまのご参加とご協力について、何卒よろしくお願い申し上げます。

【期日】：2014年12月23日（火曜日・祝日）

【時間】：10時～17時（17時よりレセプション）

【場所】：私学会館アルカディア市ヶ谷（東京都新宿区）

【内容】

～基調講演～

「社会福祉基礎構造改革から生活困窮者自立支援法へ
—その思いと願い—」

講師：古都賢一氏（独立行政法人国立病院機構）

～シンポジウム～

「コミュニティソーシャルワーク
—その源流と新たな展開を探る—」

シンポジスト

森脇俊二氏（氷見市社会福祉協議会）

菊池まゆみ氏（藤里町社会福祉協議会）

菊地達美氏（社会福祉法人同愛会）

宮城孝（日本地域福祉研究所・コーディネーター）

～総括講演～

大橋謙策（日本地域福祉研究所）

～レセプション～

◆ 2014 年度 CSW 実践者養成研修【STEP1】を 開催しました ◆

8月9日～10日に、第10期のCSW実践者養成研修を開催しました。北は宮城県から南は福岡県まで57名の方にご受講頂きました。受講者からは、「個別課題から地域課題への視点を理解できた」「ストレングスの視点や地域アセスメントの重要性が理解できた」「グループワークで他地域の多職種から意見がもらえてよかった」などの評価を頂きました。受講者の皆様お疲れ様でした♪



◆ 韓国・城山(ソンスン)デイサービスセンターの 開所について◆

当研究所客員研究の崔太子(チェテジャ)様から、韓国・城山デイサービスセンター開所のお知らせが届きましたので、掲載致します。

先月の7月15日、韓国のソウルで城山(ソサ)老人福祉センターのデイサービスセンター開所式が行われました。城山(ソサ)老人福祉センターは日本社会事業大学の大学院で社会福祉及び介護福祉を学んだ崔太子(チェテジャ)さんと沈明淑(シムヨンスク)さんが日本で学んだソーシャルワークとケアワークの知識と技術を用いて韓国で介護人材の育成と質の高いサービスを提供したいという趣旨で立ち上げた機関です。

この度の開所式には日本側では、日本地域福祉研究所の大橋謙策所長と日本医療大学の対馬徳昭理事長ご夫妻が参加し、韓国側では保健福祉部長官や韓国社会福祉学会の会長をされた金聖二先生をはじめ趙聖鉄前韓国社会福祉士協会会長及び地元の区役所の関係者や社会福祉及び介護関係者30人位が駆けつけ一緒に祝うことができました。日韓の関係者が一堂に会しての開所式でもありました。

大橋謙策所長は、開所式のお祝いの言葉のなかで、長い間金聖二先生と一緒に韓国と日本の間に社会福祉の架け橋を架けようと努力してきましたが、このデイサービスセンターの開所式はその象徴でもあり、この城山(ソサ)老人福祉センターのデイサービスセンターでは韓国の文化、制度を踏まえ、ICFなどの世界的動向を取り入れ韓国の新たなケアワーク、ソーシャルワークの在り方を実践に基づき韓国全土に情報発信出来るよう、かつこの実践が韓国のデイサービスのモデルになるよう発展することを心より祈念すると言いました。とても暖かい、かつ日韓社会福祉関係者の交流をさらに含める開所式でした。

ちなみに、城山(ソサ)老人福祉センターは主に介護保険事業を行う機関で、訪問介護、訪問入浴、デイサービス、ヘルパー養成、老人バウチャーなどのサービスを提供しています。日韓交流事業もあり主に日本からの社会福祉を勉強している学生たちの社会福祉施設及び団体などの見学及び現場実習を提供しております。

関心のある日本のみなさんからのご連絡をお待ちしております。又、私たちの城山(ソサ)老人福祉センターでは、この度のデイサービスセンターを通して良い実践の実現と今後計画している地域の低所得層の高齢者のための配食サービスの展開のため日本のみなさんからのご支援をお

願い申し上げたいと思います。日本地域福祉研究所を窓口
にしてみなさんからのご寄付を頂いておりますので具体的
な支援方法につきましては研究所にお問い合わせください。
そして韓国においてになる際は是非お寄りください。



左から金聖二前保健福祉部長官、金ウヨン麻浦区役所社会福祉課長、
対馬輝美理事長、対馬徳昭理事長、崔太子代表、大橋謙策所長、
金ウヨン韓国在宅老人福祉協会会長、趙聖鉄前韓国社会福祉士協会会長

【城山デイサービスセンター】

住所：韓国ソウル市麻浦区ワールドカップ北路 12

アングル 68（1階）城山老人福祉センター（崔太子）

TEL：82-2-325-5501/5502 Fax：82-2-325-5517

E-Mail：ktcs5501@naver.com

Homepage：http://sungsancare.com(韓国語)

◆ご寄附への御礼◆

当研究所の活動に対し、下記の方々からご寄附を頂きました。
心より厚く御礼申し上げます。

- ・井上 アヤ乃様
- ・大橋 謙策様
- ・小野 敏明様
- ・菊地 達美様
- ・國光 登志子様
- ・高橋 信幸様
- ・原田 正樹様

(五十音順)

◆ 所員（会員）向け勉強会の開催について ◆

2014年11月～2015年3月（毎月1回開催、全5回）

この度、さらなるサービスメニューとして、所員（会
員）向け勉強会を下記のとおり開催いたします。所員の皆
様の研鑽の機会としてぜひご活用下さい♪

第1回：2014年11月15日（土）14時～16時

「地域包括ケアのこれからのコミュニティソーシャルワーク」高橋信幸

第2回：2014年12月6日（土）14時～16時

「社会福祉法人の現状と経営課題について」青山登志夫

第3回：2015年1月31日（土）13時～16時

「地域ケア会議と事例検討会」國光 登志子

第4回：2015年2月28日（土）13時～16時

「コミュニティソーシャルワーカーの活動の実態と課題」中野いく子

第5回：2015年3月7日（土）13時～16時

「コミュニティソーシャルワークの効果的実践要素」菱沼幹男

【会 場】：日本地域福祉研究所会議室

【定 員】：30名（最少催行人数5名）

【対 象】：日本地域福祉研究所所員（会員）

【参加費】：無料

【お申込】：申込用紙を、当研究所ホームページよりダウ
ンロードしてお申し込み下さい

【備 考】：一般の方で参加を希望される方は、当研究所
までご相談ください♪

◆新入会所員のご紹介◆

2014年4月～2014年8月までに、下記の3名の方が新た
に入会しました（所員総数188名）。

○島崎剛氏（総合ケアセンターたいめい苑）

○玉木千賀子氏（沖縄大学人文学部福祉文化学科）

○吉松高敏氏

（山口市地域振興部北部振興局平川地域交流センター）

■編集後記■

研究所設立より20年が経ちます。

ようやく「コミュニティソーシャルワーク」という言葉が、福祉
関係者のみならず、多くの人たちと共有できる言葉となりました。

20周年を迎えるにあたり、とても喜ばしいことと思っています。

12月23日の記念講演会、祝賀会は、これまでお世話になった

みなさま、これからお世話になるみなさまと喜びを分かち合いた

いと思います。（安部晴美）

発行日 2014年10月31日 発行人 大橋謙策

特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所

〒162-0845

東京都新宿区市谷本村町 3-27 ロリエ市ヶ谷 3F

TEL 03-5225-0237 FAX 03-5225-0238

E-mail: jicsw@mx8.alpha-web.ne.jp

URL: http://www.jicw.jp